

1. 研究課題名：

乳幼児のアレルギー症に対するパラベン・トリクロサン等の
抗菌性物質の曝露・影響評価



2. 研究代表者氏名及び所属：

中村 裕之（金沢大学医薬保健研究域）

3. 研究実施期間：平成 28～30 年度

4. 研究の趣旨・概要

パラベンやトリクロサン等は歯磨き粉や石鹸、化粧品、シャンプーなどの日用品に防腐剤・抗菌剤として使用される化学物質であり、最近になって、これらの物質への曝露がアレルギー疾患の危険因子である可能性を示す研究報告が欧米から散見されるようになってきたが、その詳細は明らかではない。

本研究の目的は、これらの化学物質の曝露をより妥当性の高い方法によって評価し、さらに健康影響としてのアレルギー疾患リスクを乳幼児や小児を対象とした疫学的研究によって評価することである。

パラベンやトリクロサン等の物質の曝露量の低減化によりアレルギー疾患も新たな出現を予防できる安全・安心な社会に資する研究となることが期待できる。

5. 研究項目及び実施体制

- ① アレルギー疾患に関するパラベン・トリクロサン等の抗菌性化学物質の住民疫学（金沢大学）
- ② アレルギー疾患に関するパラベン・トリクロサン等の抗菌性化学物質の臨床疫学（国立成育医療研究センター）
- ③ 尿中パラベン、トリクロサン濃度測定とその妥当性の検証に関する研究（株式会社新日本科学薬物代謝分析センター）
- ④ 動物実験によるパラベン・トリクロサン等の抗菌性物質のアレルギー発症における病理免疫学的機序解明（高知大学）

6. 研究のイメージ

パラベンとは

主に飲料向けの防腐剤として使用されているが食品や医薬品あるいは化粧品の防腐剤成分としても用いられる。

トリクロサンとは

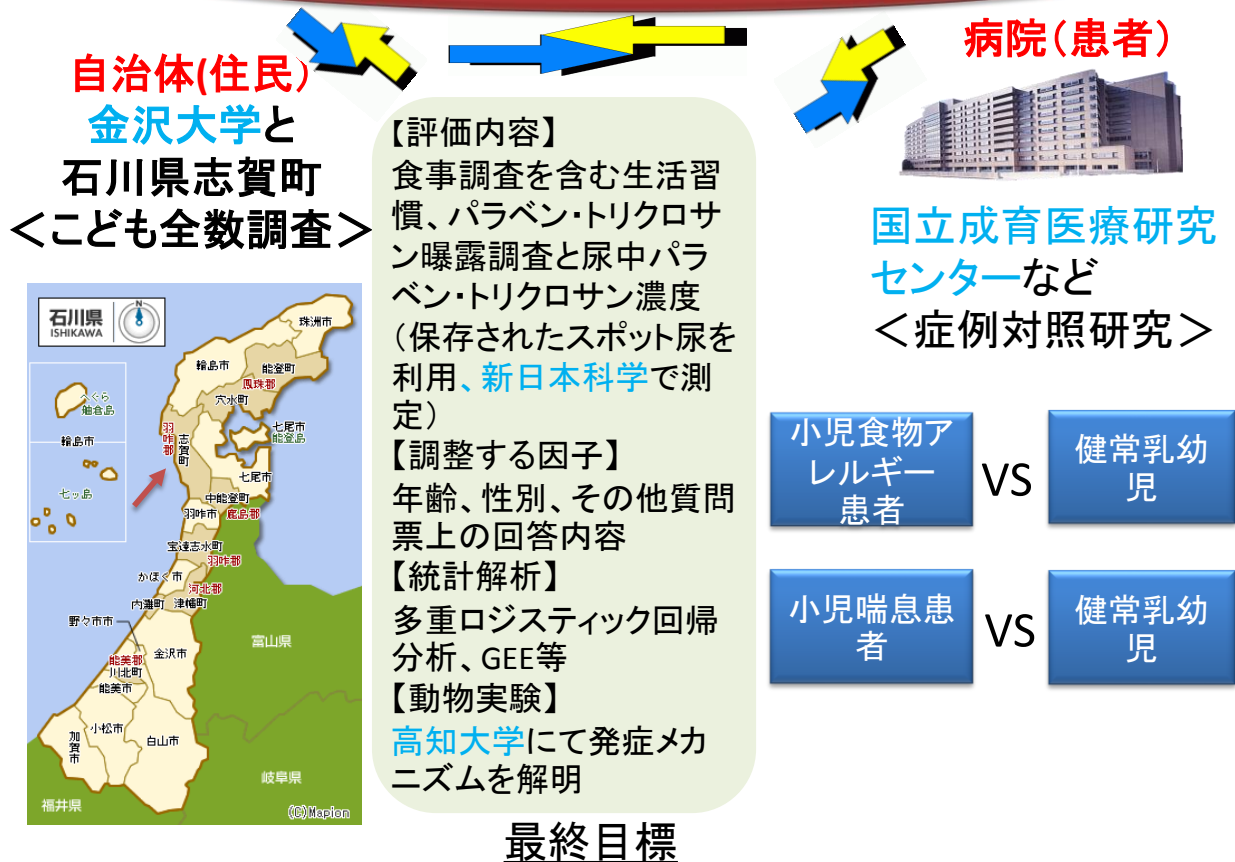
広く一般細菌に対する殺菌剤として殺菌作用を目的に石鹸、シャンプー、歯磨き等の医薬部外品に含まれる。



パラベン・トリクロサン等の抗菌性化学物質の社会問題

抗菌性作用があり、食や生活の安全を担保する役割もあるが、人によっては有害性、特に食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患を引き起こしたり、症状の増悪をもたらしたりするかもしれないが、不明な点も多い。

アレルギー疾患に関するパラベン・トリクロサン等の抗菌性化学物質の住民疫学と病院研究



1. パラベン・トリクロサンのアレルギー疾患リスクに対する疫学的総合評価
2. 曝露指標および影響指標の新たな同定による新しい予防法の開発